

日本骨髄バンクの現状（平成 22 年 8 月末現在）

	7 月	8 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,014	3,297	366,824	474,253
患者登録者数	235	227	2,760	31,003
骨髄移植例数	115	105	-	12,102

■20 歳未満のドナー登録者数

8 月 120 人
合計 13,198 人（17 年 3 月～）

■51 歳以上のドナー登録者数

8 月新規 117 人
延長 229 人
合計 19,585 人（17 年 9 月～）

■8 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／984 人、献血併行型集団登録会／2,223 人、集団登録会／9 人、その他／81 人

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 非血縁者間末梢血幹細胞移植の導入について

平成 22 年 8 月 5 日に開催された厚生科学審議会 疾病対策部会造血幹細胞移植委員会において非血縁者間における末梢血幹細胞移植の導入が確認されたこと、また、そのあわせ業務については、骨髄バンク事業の一環として骨髄移植推進財団において全国一元的に行う旨、国から通知を受けました。当財団では、本年 10 月からの導入を予定しています。

末梢血幹細胞移植の導入当初は、拙速な実施を避け安全かつ確実な導入を図るべく施設調査を行い、基準に適合する施設において、かつ限定したドナーについて実施していきます。

すでに財団は、全国の骨髄採取・移植認定施設の医師に対して末梢血幹細胞採取・移植施設認定に関する申請書類を送付しています。施設調査については、9 月中旬以降、申請があった施設から順次行い、患者登録およびドナーの方へのコーディネートを 10 月から開始します。その後も順次、認定施設を拡大していきます。

導入当初は、対象となる患者さんは、末梢血幹細胞移植認定施設で移植予定であること、また対象となるドナーの方は、①骨髄の提供履歴があること、②HLA が遺伝子レベルで 8/8 一致していること、③末梢血幹細胞採取施設に通院可能なこと、を条件としています。

既にドナー登録をされている方へは、本年 7 月の骨髄バンクニュースで導入の概要をお知らせしていますが、本マンスリー JMDP とあわせて、患者さん、主治医の方へ末梢血幹細胞移植の導入や手続き等についてご案内させていただきました。

なお、コーディネーターに対しては 7 月から研修を実施しています。また、地区普及広報委員の皆様には 9 月 12 日に研修会で説明させていただきましたが、11 月から 12 月にかけて全国の説明員を対象として各地区でドナー登録時の説明や対応等について、より詳細な研修を行う予定です。

また、現在、チャンスの改定や登録時にドナーの方にご覧いただく DVD などの準備を進めているところであり、国や日本赤十字社と調整をした上で、新たなドナー登録者の方へ末梢血幹細胞移植の説明を開始するのは、平成 23 年 1 月ごろを予定しています。

末梢血幹細胞移植が非血縁者間に導入されることにより、ドナーの方と患者さん双方に選択の機会が確保され、より多くの患者救命に貢献します。ひとりでも多くの患者さんが移植の機会を得られるよう、末梢血幹細胞採取・移植という新たな業務に役職員一同、一致団結して取り組んでまいりますので、関係者の皆様におかれましては、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



2 HLA照合サービスが新しくなります

当財団ホームページに掲載しているHLA照合サービスは、患者さんにドナーの方とのHLA適合状況（ドナー候補者の有無や人数）を検索することを可能にするサービスです。この度、日本赤十字社において新たにシステム開発され、9月21日から、より詳細で正確な情報をご覧いただけるようになります。以下は主な改善点です。

- これまで抗原型適合者数のみ検索可能でしたが、新しい検索サービスではDNA型別の適合者数も表示されます。
- これまで登録されている全てのドナーさんを検索対象としておりましたが、新しい検索サービスでは登録を保留されている方や他の患者さんとコーディネート中のドナーさんは検索対象としないため、患者さんにとってより正確な状況把握が可能になります。

詳しい利用方法はホームページに掲載されますのでご覧ください。

なお、同時に、当財団のHLA照合サービスは閉鎖いたしますが、新しい検索サービスを今までどおり当財団のホームページからご利用いただけます。

3 平成 23 年度予算の概算要求について

平成 23 年度予算の概算要求は 8 月末までに各府省庁においてまとめられたところですが、当財団の要求額は 4 億 5,199 万円となり、今年度予算 4 億 2,921 万円に対して、2,278 万円の増額（前年対比 105.3%）となりました。

増額の主な理由としては、①末梢血幹細胞移植（以下「PBSC T」）の導入に伴うコーディネート支援システムの改修費用、②研究基盤整備事業としての検体保存事業の実施、が挙げられます。①については、既存システムをリニューアルし、本年 10 月より非血縁者間 PBSC T を導入することを受け、平成 23 年度に本格的にそのためのシステム構築を実施しようとするものです。また、②については、移植成績向上等の研究に対応するべく、患者とドナーの検体をペアで保存する事業であり、今後、国庫補助により実施しようというものです。

平成 23 年度予算全体が大幅な削減傾向にあるなかで、概算要求が 2,000 万円余の増額となったことは大変喜ばしいことではありますが、今後、財務省との調整が控えていることから、これからの成り行きに注目していきたいと思えます。

4 骨髄バンク推進全国大会・地区普及広報委員研修会の開催

■ 9 月 12 日（日）、新潟市の新潟市民プラザ（ホール）で「骨髄バンク推進全国大会 2010 in 新潟～命をつなぐチームプレー～」が開催され、全国から約 350 名の方が参加しました。

第 1 部の式典では、来賓のご挨拶、小寺常任理事による事業報告に続き、新潟県内のボランティア団体から推薦をいただいた企業・学校等、23 団体に感謝状が贈呈され、最後は斉木翔太君が自分で作った「患者さんからのメッセージ」を読み上げました。第 2 部のイベントでは、新潟市ジュニア合唱団によるミニコンサート、骨髄提供の経験者でもあるマラソンランナーの深尾真美



さん、骨髄移植を受けて現役復帰されたプロスノーボーダーの荒井善正さん、サッカーJ1アルビレックス新潟の内田潤さん、新潟県立がんセンター新潟病院の廣瀬貴之内科医長をゲストに迎え、斉木実行委員長の司会によるトークショー等が行われました。

また、会場ロビーと会場があるNEXT21ビル1階のアトリウムで、「骨髄バンク」「骨髄バンクサポート新潟」「骨髄バンク命のアサガオにいがた」のパネル展示が行われました。

本大会は大会実行委員の方々や地元自治体・企業をはじめ、多くの皆さまのご尽力によって開催されました。この場をお借りして、皆さまに厚く御礼申し上げます。

※**大会実行委員会**（敬称略） 委員長：斉木 桂子（骨髄バンクサポート新潟）、副委員長：高野 豊（骨髄バンク命のアサガオにいがた）、副委員長：南雲 正一（骨髄バンクボランティアネット新潟）、窪田 明則（にいがた骨髄バンク応援団）、高橋 史明（新潟県）、浅間直美（新潟市）

■全国大会開催の当日10:00から、新潟市の新潟駅前カルチャーセンターで「地区普及広報委員研修会」が開催されました。約40名が参加して、PBCSTを中心に各地域での活動状況などについて研修を行いました。

■全国大会に先立つ9月10日（金）、HARD OFF ECO スタジアム新潟の正面広場でドナー登録が実施され、7名のドナー登録がありました。

5 10月は「骨髄バンク推進月間」

10月は「骨髄バンク推進月間」です。骨髄移植を待つ患者さんのために、一人でも多くの方にドナー登録をしていただけるよう、全国各地でドナー登録会やキャンペーン事業が行われます。ここでは、その一部をご紹介します。

■テレビ&ラジオ番組で骨髄バンクを紹介

- ①「中山秀征のJAPAN RHYTHM〜ジャパリズム〜」：東京FM（10月15日、16:30〜16:55）他15局ネットで放送予定。 ※各局の放送日程は「政府広報オンライン」HPをご覧ください
⇒ <http://www.gov-online.go.jp/pr/media/radio/bj/time.html>
- ②「武田鉄也の週刊鉄学」：CS朝日ニュースター（10月17日、11:00〜11:55）
- ③「生きるを伝える」：TV東京（放送日未定、20:54〜20:58）

■ライオンズデー骨髄バンク推進イベント

骨髄バンクPRイベントと献血併行型ドナー登録会を実施します
開催日：10月3日（日）、会場：新宿アルタ前ステージ

■骨髄バンクチャリティ「第42回オープントーナメント 全日本空手道選手権大会」

試合会場でCM映像放映、ポスター展示を行います
開催日：10月30日（土）・31日（日）、会場：東京体育館（千駄ヶ谷）
問合せ先：サンライズプロモーション東京 TEL 0570-00-3337（全日10:00〜19:00）



6 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
臨時理事会・評議員会	公開・一部非公開	9月30日(木) 13:00～ 廣瀬第2ビル地下会議室
ドナ-安全委員会	非公開	10月2日(土) 12:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室
常任理事会	公開・一部非公開	10月14日(木) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、調整医師、採取施設、移植施設およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

7 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の対応について

9月10日付けで、厚生労働省より「骨髄又は末梢血細胞のあっせんに伴う『クロイツフェルト・ヤコブ病及びその疑い』の取り扱いについて」が当財団あて通知されました。

これにより、マンスリーJMDP8月13日号で既報のとおり、英国滞在歴のあるドナーの対応方法を変更します。なお、マンスリーJMDP8月13日号では英国滞在歴の制限が「1日以上」から「通算1カ月以上」の変更のみで、その他の部分についての対応は従来どおりのご案内しましたが、「1980年～2004年に、1カ国または複数の国に通算6カ月以上滞在」の国に「サウジアラビア」が追加されていますので、別添資料「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病に関する対応について(H22.9.15)」を再度ご確認のうえご対応くださいますようお願いいたします。

今後、9月21日発送分からドナーに対して新しい問診票を送付します。10月から開始される非血縁者間末梢血幹細胞移植(PBSCT)のドナーについても同様の対応となります。

8 子宮頸がんワクチン接種ドナーの適格性について

最近、ドナーが子宮頸がんワクチン接種をする際の適格性について、問合せが数例ありました。

現在の適格性判定基準(第5版)の予防接種については、日赤の献血基準を参考として作成されています。そこで献血者と同様、接種後2日以内は不可(インフルエンザワクチンなどと同じ扱い)とすることとしましたのでお知らせします(適格性判定基準第5版P30参照)。

確認の上、ご対応くださいますようお願いいたします。

9 確認検査検体の血清量不足について(調整医師の先生方へ)

検査時の検体のうち、生化学・感染症検査等に用いる血液(血清)量が不足しているケースが、8月1カ月間に9件起きました。血清分離用スピッツへの規定量の採血については、これまでも何度かお願いしておりますが、ドナーの方に再度来院していただかなくてはならないケースも出てくることから、以下についてあらためてご確認のうえ、徹底してくださいますようお願いいたします。



血清分離用スピッツ（茶色のキャップの採血管）に採血していただく際は、必ず、規定量（9.0ml）を採血していただき、血清が3ml以上確保されるようご協力をお願いします。

なお、本年 3 月以降、採血管お届けの際に上記内容について記載したチラシを同封しておりましたが、9 月末でいったん終了とさせていただきます。

10 骨髄運搬バッグから骨髄液が漏出した事例について（採取施設の先生方へ）

このたび、骨髄採取施設において、骨髄採取バッグから骨髄運搬バッグへの分注作業後に骨髄液が漏出していた事例が報告されました。原因は調査中であり現段階では不明ですが、再発防止の観点から、9 月 3 日に各採取認定施設に対して安全情報を発出しました。各施設におかれましては、骨髄採取バッグ、骨髄運搬バッグの扱いは慎重に行い、破損がないかどうか十分に確認し、また使用中は、バッグの状況を常に確認するようお願いいたします。

11 末梢血幹細胞移植導入に係るドナーへの発送書類の変更について（コーディネーター・地区事務局へ）

平成22年10月1日以降、末梢血幹細胞採取・移植認定施設の認定を待って、患者さんとドナーの方が骨髄と末梢血幹細胞という2つの採取方法から選択することが可能となるコーディネートが限定的に開始されます。これに伴い、下記のとおり発送書類の変更を行います。

1. 適合ドナーへのお知らせ

導入時は限定的な実施であり、現行どおりたくさんの骨髄コーディネーターも実施されます。このため、初期コーディネート担当からドナーの方へ開始シートを送付する際、「骨髄および末梢血幹細胞提供のコーディネート」または「骨髄提供のコーディネート」の案内文書のどちらかを同封します。なお参考のため、コーディネーターの皆様・地区代表協力医師・調整医師・採取責任医師の先生方に、今号のマンスリーJMDPに2つの案内文書を同封させていただいています。

①送付開始時期

10月1日（金）以降で、末梢血幹細胞移植導入時から。

※「骨髄および末梢血幹細胞提供のコーディネート」対象ドナーは中央事務局末梢血幹細胞移植担当（PB担当）が担当することとなり、「骨髄コーディネーター」対象ドナーは、これまでどおり地区事務局が担当します。

2. 初期コーディネート担当から適合ドナーへ送付の返信用紙Ⅳ「問診票」の12.

末梢血幹細胞移植を含めた提供歴を確認するため、内容が一部変更となります。

①変更内容

改訂前) 12. 今までに骨髄提供をしたことがありますか・・・・・・・・・・・・はい・いいえ
「はい」の方・・・・・・・・（ ）回 　いつ頃（西暦 年 月）

改訂後) 12. 今までに骨髄提供または末梢血幹細胞提供をしたことがありますか・・・・・はい・いいえ
「はい」の方・・・・・・・・骨髄：（ ）回、いつ頃（西暦 年 月）誰に（ ）
末梢血幹細胞：（ ）回、いつ頃（西暦 年 月）誰に（ ）

②変更時期

10月1日（金）以降で、末梢血幹細胞移植導入時から。

12 第16回コーディネーターブラッシュアップ研修会について（第1報）

第16回コーディネーターブラッシュアップ研修会は、平成23年3月に愛媛県松山市で開催される第33回日本造血細胞移植学会総会に併せて開催することになりました。具体的な内容については、現在、検討しているところですが、現時点で決まっていることをお知らせします。

<日時> 1日目 平成23年3月10日（木）9時～19時（予定）

2日目 平成23年3月11日（金）8時30分～12時45分（予定）

*学会会期は3月9日（水）～10日（木） *3月9日（水）は移動日とします。

*3月9日（水）16:00～19:00（予定）は、地区事務局・コーディネーション
スタッフ会議開催を予定しています。

<場所> 愛媛県松山市

愛媛県民文化会館（ひめぎんホール）

*研修会は、コーディネーター、地区事務局員、初期コーディネート担当職員は全員参加です。原則、1日のみの参加は不可としますが、個別にご相談させていただきますので、地区事務局経由でドナーコーディネート部に連絡ください。

*交通、宿泊の手配は各自で手配をお願いします。実費を支給しますが、経費節減の見地からできるだけ宿泊パック等の割安なものをご利用ください。

*欠席のご連絡、後泊の必要についてのご相談も地区事務局経由でドナーコーディネート部にお願いします。

13 連絡事項**◆関東地区事務局の移転について**

関東地区事務局が移転することとなりました。住所が下記のとおり変更となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（TEL、FAX番号は変更ありません。）

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3丁目19番地 廣瀬第2ビル 8階

関東地区事務局 電話番号:03-5280-4560 FAX番号:03-5280-3087

なお移転に伴い、関東地区事務局の業務は下記のとおりとなります。

17日（金）の対応

①電話（03-5280-2613）、FAX（03-5280-3087）は使用可能です。

②事務局代表電話（03-5280-4560）は留守電メッセージ対応となります。

9月18日（土）～20日（祝）の対応

①電話（03-5280-2613）は使用できません。

②FAX（03-5280-3087）はドナー一部FAXに転送されますので通常通り使用可能です。

③事務局代表電話（03-5280-4560）も使用できません。

なお、21日（火）から通常通りの業務を行います。

また、総務部（財団の総合受付）は廣瀬第2ビル7階から8階に移ります。